

注 意 報

農技セ第6517号
平成29年8月18日

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成29年度農作物病虫害発生予察情報について

平成29年度農作物病虫害発生予察注意報第5号を発売したので送付します。

平成29年度病虫害発生予察注意報第5号

平成29年8月18日
徳 島 県

7月第4半旬～8月第2半旬における勝浦町及び上板町での予察灯調査では、特にツヤアオカメムシが、平年に比べて多く誘殺されております。また、ナシ園では被害果実も確認されており、今後、被害の拡大が懸念されますので、注意報を発令します。

現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

農 物 名：果樹全般（特に、ナシ、カキ、温州ミカン）

病虫害名：果樹カメムシ類（主に、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）

1. 発生地域 県内全域
2. 発生時期 8月中旬～（平年より早い）
3. 発生程度 多（前年より多く、平年より多い）

4. 注意報発令の根拠

(1) 予察灯における7月第4半旬～8月第2半旬の果樹カメムシ類の誘殺数

勝浦町では、ツヤアオカメムシが1,261頭と、平年(395頭)の約3倍、前年(153頭)の約8倍誘殺され(図1)、チャバネアオカメムシは369頭と、平年(274頭)の約1.3倍、前年(72頭)の約5倍誘殺されている(図2)。また、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ、クサギカメムシの3種合計は1,818頭と、平年(743頭)の約2.4倍である(図3)。

上板町では、ツヤアオカメムシが119頭と、平年(47頭)の約2.5倍、前年(5頭)の9.4倍誘殺されている(図4)。なお、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ、クサギカメムシの3種合計は345頭と、平年(346頭)並である(図5)。

(2) 8月前半のナシ巡回調査では、被害果率は0.3%と、平年(0.1%)並の発生であるが、発生圃場率は25.0%と、平年(6.8%)に比べて高い。

(3) 高松地方气象台が8月17日に発表した1か月予報では、平均気温は平年より高く、降水量は平年並みか多く、特に期間のはじめは気温の高い日が続くと予測されており、発生助長的な気象条件である。

5. 防除法等

- (1) 果樹園周辺の山林や雑木林から成虫が飛来してくるので、園内を巡回し、飛来を確認したら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が高いので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。
- (4) 飛来数が多い場合は、継続的な防除が必要であるが、薬剤の影響で鱗翅目害虫やハダニ類が増加する可能性があるので注意する。

※有機リン系薬剤は天敵への影響は小さいが、残効は1～2日程度と短い。ネオニコチノイド系薬剤は、吸汁阻害効果が高く5～10日程度残効はあるものの、連用した場合、鱗翅目害虫が増加する傾向にある。合成ピレスロイド系薬剤は、殺虫効果が高く残効も長いですが、ミカンハダニが増加する可能性があるので注意する。

- (5) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

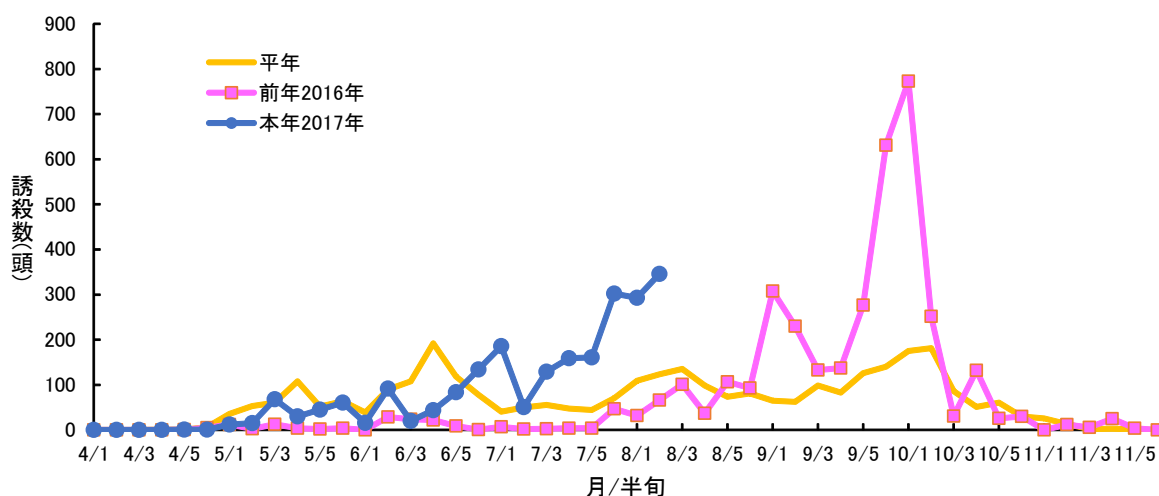


図1 予察灯によるツヤアオカメムシの誘殺数

※調査地点:勝浦町生比奈

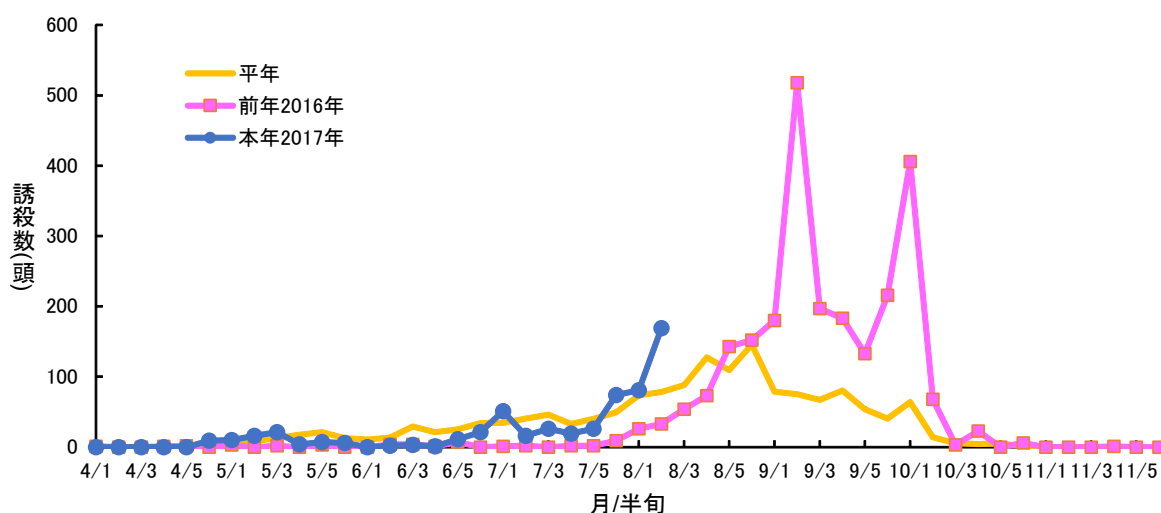


図2 予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数

※調査地点:勝浦町生比奈

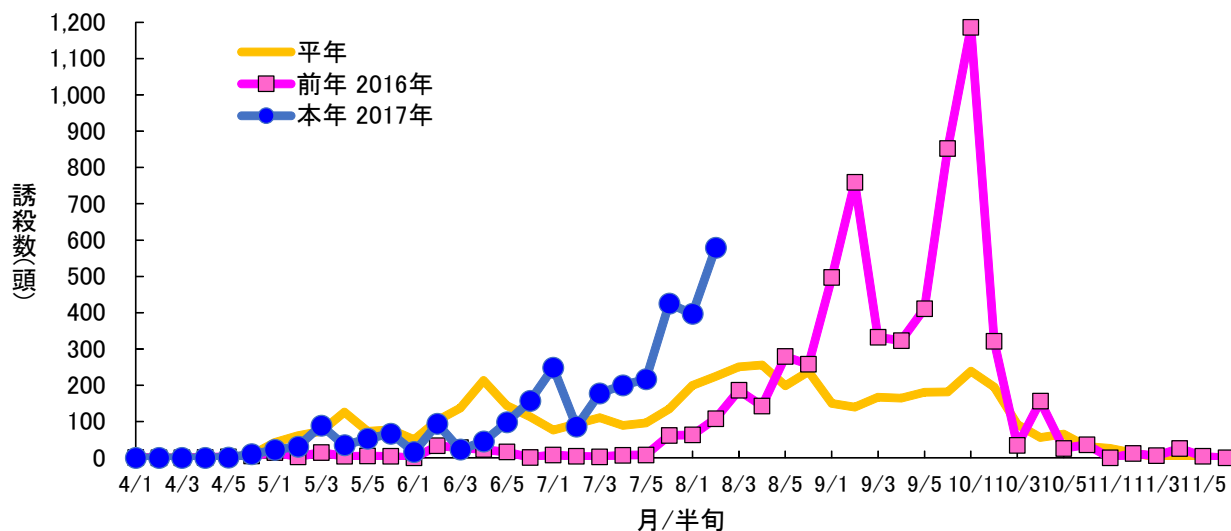


図3 予察灯による果樹カメムシ類(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(勝浦町)

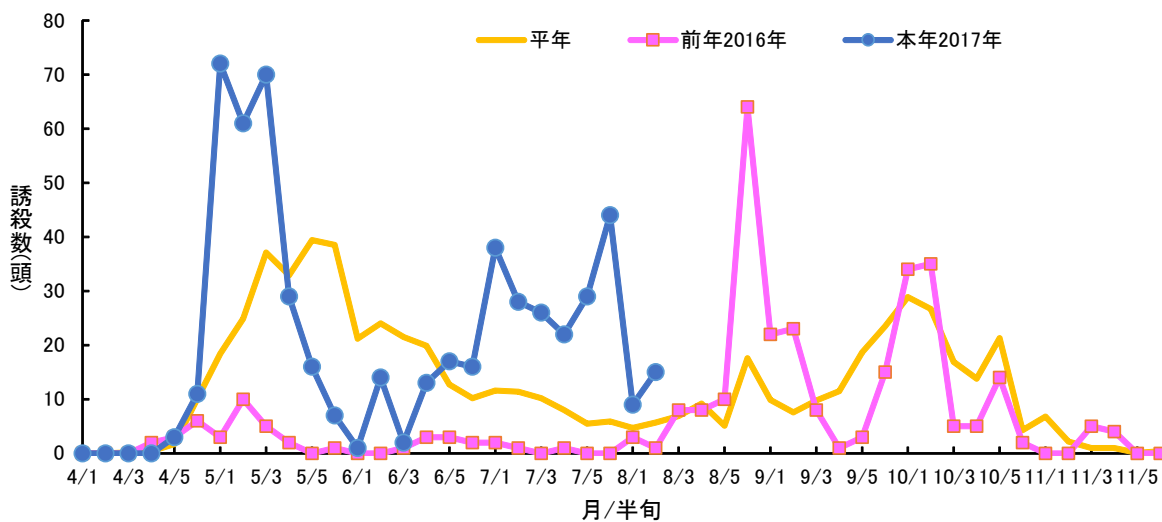


図4 予察灯によるツヤアオカメムシの誘殺数
※調査地点:上板町神宅

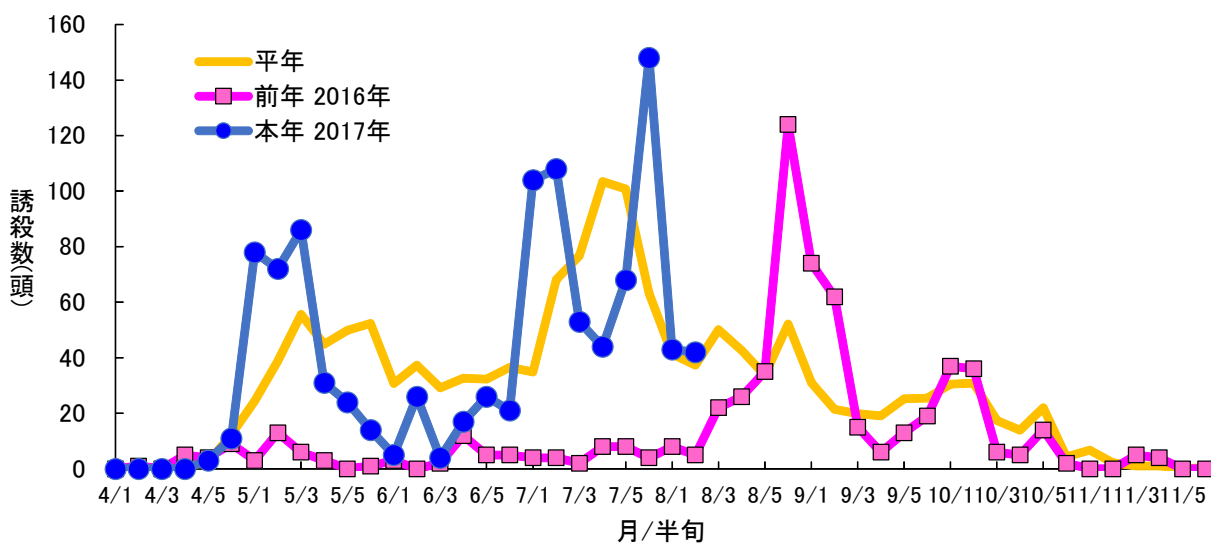


図5 予察灯による果樹カメムシ類(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(上板町)

(参考)



写真1 ツヤアオカメムシ



写真2 チャバネアオカメムシ